

13 長岡市文化財保存活用地域計画【新潟県】

【計画期間】令和8～17年度（10年間）

【面積】891.26km²

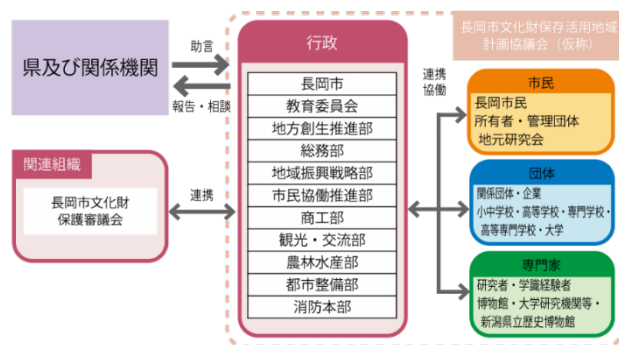
【人口】約25.6万人

【関連計画等】

日本遺産「「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」（H28年度）、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(H29年度)、100年フード「長岡・中越地域の雪国発酵・保存食文化」(R7年度)



推進体制



歴史文化の特性

1. 豊かな自然環境とともに歩む長岡 - 守門岳から日本海まで -

長岡市は信濃川が市の中央を縦断し、両岸に肥沃な沖積平野が広がっている。また東と西に守門岳や東山連峰、西山丘陵などの山地が連なり、北西は日本海に接した海岸が続く。この豊かな自然環境に囲まれた長岡市に暮らす人々は、自然との調和を保ちつつ、環境に適応した生業や生活を営み、さまざまな風俗慣習や伝統行事を通じて、地域の特性を育んできた。

2. 信濃川水系の恵み - 水とともに生きる -

長岡市を流れる信濃川水系は、多くの恵みをもたらすとともに漁業・農業・交通・産業などのさまざまな分野で重要な役割を担ってきた。鮭・鱒・鮎などの川魚は原始古代より人々の貴重な食料源となり、豊富な水は稲作に欠かせない灌漑用水として利用されてきた。川を行き来する舟運は、商業や物流を支え、町の発展を促した。信濃川の水は私たちの生活に欠かせないものとなっている。

3. 交通の結節点・長岡 - 人と文化の交流 -

新潟県のほぼ中央に位置する長岡では、古代に古志郡の官衙（役所）や幹線道路の北陸道が整備され、以来、交通の結節点として重要な役割を果たしてきた。その後、海運、舟運、街道、鉄道などの交通網が発達し、人と文化の交流や地域の発展に貢献した。

4. 城下町の形成と発展 - 政治・商業・教育の中心地へ -

長岡では南北朝の動乱を経て、室町時代から安土・桃山時代にかけて越後守護上杉氏及び守護代長尾氏とその家臣団による支配が確立し、各地に山城や居館が形成されていった。江戸時代は幕府直轄地を除き諸大名が領地を治め、長岡藩や与板藩は領内の整備や人材教育に力を入れ、信濃川の水運を活用し商業を発展させた。

5. 長岡のものづくりと産業 - 手工業から近代産業へ -

長岡では、醸造業や繊維・金工・製紙・木竹工などの手工業が地域特有の環境の中で育まれ、現在は長い年月を経て地域の伝統産業として受け継がれている。また、明治時代に東山油田を中心とした石油採掘をきっかけに機械加工や製油業など近代産業が興った。以後、長岡は製紙業、金属加工など「ものづくり」の町として発展していく。

6. 不撓不屈の不死鳥・長岡 - 戦災・災害からの復興 -

長岡は北越戊辰戦争、長岡空襲、7.13 水害、新潟県中越地震、中越沖地震など度重なる戦災や災害の甚大な被害があったが、その度に不撓不屈の努力で復興した。夏の長岡まつりでは、長岡空襲の慰霊、そして中越地震からの復興の象徴として「復興祈願花火フェニックス」の花火を打ち上げる。そこには、不死鳥のように困難から立ち上がる長岡市民の平和への祈りが込められている。

指定等文化財件数一覧

類型		国指定	国選択	県指定	市指定	国登録	指定・選択小計	登録小計	合計	
有形文化財	建造物	2		1	16	40	19	40	59	
	美術工芸品	絵画	0		3	9	0	12	0	170
		彫刻	1		8	37	0	46	0	
		工芸品	0		5	14	0	19	0	
		書跡・典籍	1		2	19	0	22	0	
		古文書	1		1	35	0	37	0	
		考古資料	4		8	13	0	25	0	
	歴史資料	0		1	8	0	9	0		
小計	9		29	151	40	189	40	229		
無形文化財		0	0	1	2	0	3	0	3	
民俗文化財	有形の民俗文化財	2		2	9	0	13	0	39	
	無形の民俗文化財	1	0	3	22	0	26	0		
	小計	3	0	5	31	0	39	0	39	
記念物	遺跡	4		6	34	0	44	0	87	
	名勝地	0		0	3	0	3	0		
	動物・植物・地質鉱物	7		3	30	0	40	0		
	小計	11		9	67	0	87	0	87	
文化的景観		0					0		0	
伝統的建造物群		0					0		0	
合計		23	0	44	251	40	318	40	358	

指定等文化財は358件、未指定文化財は3,337件把握

将来像 ふるさとの歴史文化を守り、伝え、愛着と誇りをもてる長岡 ～誰もがまちの魅力発信者へ～

	課 題	方 針	事業の例
方向性1 知る	1 文化財の把握調査・詳細調査・基礎整理等が不十分である 2 地域(地区・集落)の調査・研究活動が停滞している	1 文化財の把握調査・詳細調査・基礎整理等を推進する 2 市民による地域(地区・集落)の調査・研究を促進する	1-3 収蔵資料の整理・目録作成 市の所管施設で収蔵する過去の未整理資料や新規資料等について、基本情報の記録、整理・目録化を進める ■行政、市民、専門家 ■R8～17
方向性2 守る	3 文化財の適切な維持管理が必要である 6 文化財の防災・防犯対策が不十分である等	3 文化財の適切な維持管理のため、所有者を支援する 6 文化財の防災・防犯対策を推進する等	6-1 文化財の災害リスクの把握 ハザードマップと文化財の所在地を照合し、災害リスクの見える化を図り、所有者等と共有する ■行政、市民、団体、専門家 ■R8～13
方向性3 伝える	7 文化財の調査・修理の内容を後世に伝える必要がある 8 歴史文化の魅力を継続して発信することが必要である等	7 文化財の調査・修理記録を報告書として作成・公開する 8 歴史文化の魅力を継続して発信し、広く周知する等	8-4 「地域の宝磨き上げ事業」との連携強化 文化財保護事業と「地域の宝磨き上げ事業」との連携を強化し、市民活動の活発化を図る ■団体、行政、市民 ■R8～17
方向性4 活かす	11 各地域における文化財展示施設の企画連携が不十分である 13 文化財と観光振興の更なる連携が必要である等	11 各地域の文化財展示施設の活用と企画連携を強化する 13 文化財と観光振興の事業連携を強化する等	11-3 文化財展示施設の共同企画展の開催 文化財展示施設の連携を図り、共通のテーマ・ストーリーによる共同企画展を実施する ■行政、市民 ■R8～17
方向性5 育てる	15 文化財保護活動に関わる人材が少ない 17 文化財を他市町村と連携して活用する取組が不足している等	15 市民が文化財保護に関わる機会を設け、興味関心を高める 17 共通のテーマ・ストーリーにより、他市町村と文化財活用の連携を図る	15-1 文化財の維持管理に関わる市民ボランティアの募集と学習会・清掃活動等の実施 文化財の維持管理に関わる市民ボランティアの募集と文化財の学習を兼ねた清掃活動等を実施する ■市民、行政 ■R8～17

4つの関連文化財群とストーリー

1 長岡の縄文文化 ～自然とともに歩む暮らしと集落～

長岡は新潟県有数の縄文遺跡の宝庫である。それは豪雪がもたらす豊かな水や森が多種多様な動植物を育んだからにはほかならない。およそ8千年前に大きな環境変化に見舞われ、日本海側で雪が多く降るようになった。厳しくも豊かな自然の恵みをうけて、縄文人は独特の感性を育みながら、数千年という長い時間軸の中で暮らしてきた。豪雪の長岡はこの頃にはじまり、そこで培われた暮らしの知恵は、後世にも引き継がれていった。



馬高・三十稲場遺跡



馬高遺跡出土品

2 遺跡が語る古代の長岡 ～交通の要衝・古志郡の成立と人々の営み～

奈良・平安時代、現在の長岡市域は古志郡と呼ばれ、その中心となる古志郡衙（役所）は八幡林官衙遺跡周辺にあった。八幡林官衙遺跡は北陸道と信濃川に通じる旧島崎川沿いに位置し、頸城（上越市）の越後国府や信濃川・阿賀野川河口周辺（新潟市）の沼垂城、さらには寺泊からの航路で佐渡国（佐渡市）とも結ばれていた。郡内の各地に集落が営まれ、その周辺で稲作を中心とした農耕や須恵器・漆器・曲物製作など様々な手工業が行われ、交通・産業の中心地として後の長岡市へと通じる風土が形成されていった。



八幡林官衙遺跡



八幡林官衙遺跡出土品

3 雪国長岡の米づくり・酒づくり ～大地の水の恵み～

長岡は新潟県有数の米どころであり、米と水を主原料とする日本酒の製造が盛んである。それは、豊かな自然環境と歴史的背景によるものである。特に、日本有数の豪雪地帯であることから、清らかな雪解け水が豊富で、これが米づくりと酒づくりに欠かせない条件となっている。また、近世に商工業が発展し、交通網が整備されて、生産・流通を支える基盤となった。度重なる洪水など自然災害を乗り越え、米づくり・酒づくりは時代とともに発展し、地域の生活、風俗慣習、食文化などと深く結びついている。



旧長谷川家住宅



機那サフラン酒製造本舗 土蔵

4 長岡開府の歩みと復興 ～先人たちの営みと人材育成～

江戸時代のはじめ、藩主の牧野氏が長岡城を完成させて以来、長岡の町は政治・経済・文化交流の場として発展し、歴代藩主は教育にも力を入れた。幕末の動乱で戊辰戦争の戦場となり、町は壊滅的な損害を受け困窮を極めるが、小林虎三郎は人材育成こそが復興への足掛かりになると、救援米の売却資金を使って教材などを用意し、国漢学校を開校した。人材育成の大切さは「米百俵」の故事として現在も語り継がれ、多くの困難を乗り越える原動力となってきた。



長岡城跡



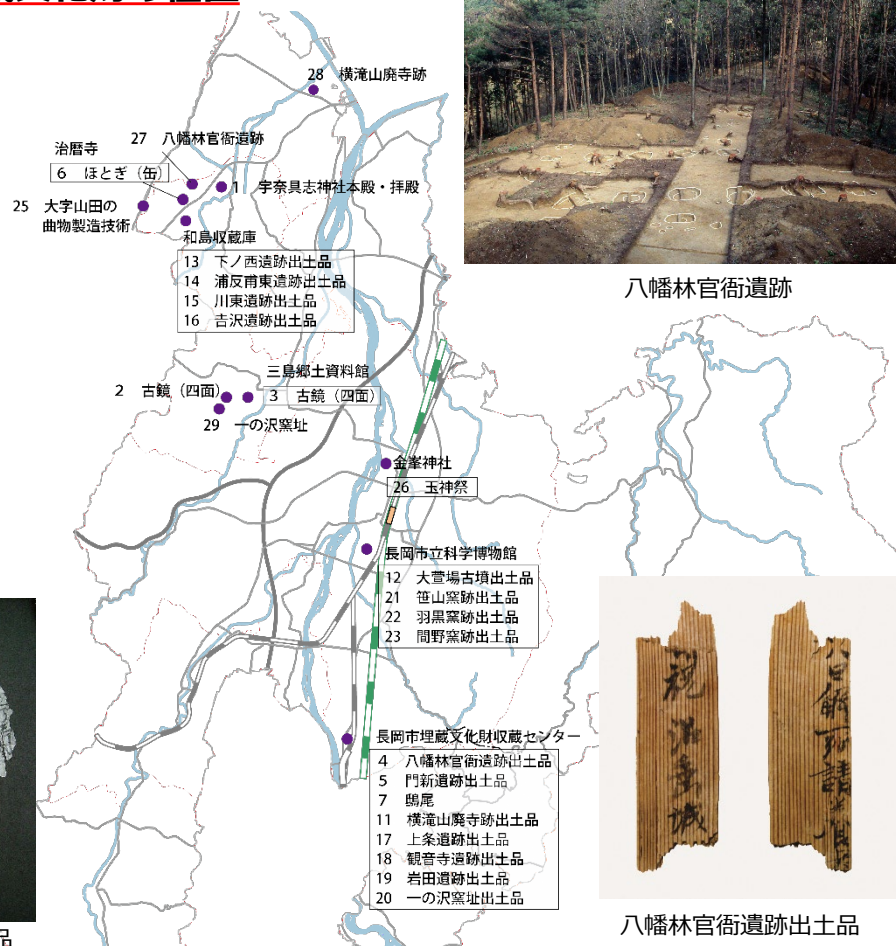
順動丸シャフト

【関連文化財群2】遺跡が語る古代の長岡 ～交通の要衝・古志郡の成立と人々の営み～

概要

奈良・平安時代、現在の長岡市域は古志郡と呼ばれ、その中心となる古志郡衙（役所）は八幡林官衙遺跡周辺にあった。八幡林官衙遺跡は北陸道と信濃川に通じる旧島崎川沿いに位置し、頸城（上越市）の越後国府や信濃川・阿賀野川河口周辺（新潟市）の沼垂城、さらには寺泊からの航路で佐渡国（佐渡市）とも結ばれていた。郡内の各地に集落が営まれ、その周辺で稲作を中心とした農耕や須恵器・漆器・曲物製作など様々な手工業が行われ、交通・産業の中心地として後の長岡市へと通じる風土が形成されていった。

主な構成文化財の位置



関連文化財群に関する課題

- ・ 八幡林官衙遺跡について、子どもや市民の認知度が低い
- ・ 複数の遺跡から出土した文字資料の内容を統一的に参照する手段がない
- ・ 八幡林官衙遺跡の整備が未着手のため、史跡の活用が不十分である 等

関連文化財群に関する方針

- ・ 学校への出前授業や学習会、企画展等の開催により、認知度を高める
- ・ 出土文字資料のデジタルアーカイブ化を進め、手軽な閲覧方法を提供する
- ・ 史跡活用のため整備方法を検討する 等

関連文化財群に関する主な事業

3 ストーリーに関連した出前授業や学習会、企画展等の開催

学校への出前授業や企画展等の開催に合わせた学習会を定期的開催する ■行政、団体 ■R8～17

4 出土文字資料データベースのオンライン公開

データベースを作成し、HP上に載せ、公開する ■行政 ■R8～17

5 公有地の整備構想の検討

史跡の公有地部分における活用のための整備方法を検討する ■行政、市民、団体、専門家 ■R8～17